

九条70周年はらまち

平成18年8月6日

「はらまち九条の会」ニュース No. 5

2006(平成18)年8月6日(日)発行

<1945年8月6日はヒロシマに原爆投下の日>

「南相馬市」という市名は
あえて使いませんでした!?



鳩を抱く少女などデザインは朝倉悠三さん

「九条の会」のシールができました! 自家用車や玄関などにも貼ってください!

● マスコミがこぞって安倍晋三首相誕生目指してのキャンペーンが始まり、いよいよ改憲の動きも切迫してきています ● ささやかですが、このほど私たち「はらまち九条の会」では、<左>のような「守ろう! 憲法九条」のシール(直径11センチ)を製作しました。鳩を抱く少女の絵や色合いなどのデザインは、鹿島区の会員で無線塔や相馬野馬追の絵画で有名な朝倉悠三さんです ● シールは2,000枚を製作。「はらまち九条の会」会員235名には、各3枚を配布します。誇りを持って堂々と、車や玄関などに貼って憲法九条の重要さや改憲の恐ろしさをアピールしましょう。知人にも配ってください ● 事務局では、シール1枚を100円で頒布し、活動費の一部にしたいと考えております。何枚でも頒布にご協力いただける方は事務局にご連絡ください ● さらに、「小高九条の会」や「相馬九条の会」にも同じデザイン・色違いでシールを作るようすすめ、相双地区だけでなく、福島県一円にこのシールを拡大したいと考えています。

憲法9条に関する ビデオをお貸しいたします

- ①「今年6月24日の澤地久枝さんの記念講演会」(福島県文化センターで満席2,000人の県民に、熱く九条について語りかけています。) 90分
- ②「憲法9条、いまこそ旬しゃん」(同名の岩波ブックレットの元になった講演) 124分
- ③「九条の会有明コロシウム講演会」(2005年7月30日三木睦子・鶴見俊輔・小田実・澤地久枝・奥平康弘・大江健三郎・井上ひさしの講演) 135分
- ④「憲法9条は訴える」(よびかけ人9名のほか、九条の会事務局長小森陽一やコメディアン松元ヒロの出演で楽しい) 43分
- ⑤「軍隊をすてた国コスタリカ」(1949年から軍隊を持たない中南米の国、国家予算の四分の一を教育費に充てています。) 86分

◆ ビデオは各事務局員宅に準備してありますので、お気軽にお申し出ください。
(学習会がなかなか開けないので...)

・石田 TEL22-4037
・井上 TEL22-7511
・早坂 TEL22-0326
・番場 TEL22-0715
・山崎 TEL22-8631

頌の詩

ほんのわずかばかりの

若松丈太郎

まだ咲いていない木の花の色についてそうするように
梢でつかのまの眠りを眠っている小鳥の鳴き声についてそうするように
国境をまえに毛布一枚で寒さをしのいでいる老いた難民の息づかいにも
流弾で即死した母親の胸にしがみついて泣き疲れたあかんぼうの涙にも
地雷で脚を失った少年の行きどころないこころの痛みにも
ほんのわずかばかりの想像力を
劣化ウラン弾で白血病になった少女の宙をさまよう視線の先にも
ほんのわずかばかりの想像力を
ほんのわずかばかりの想像力が変えることのできるものが
あるのではないかと



○わかまじょうたらう(詩人・日本現代詩人協会会員・原町区栄町在住・はらまち九条の会会員)

(詩集『越境する霧』から)

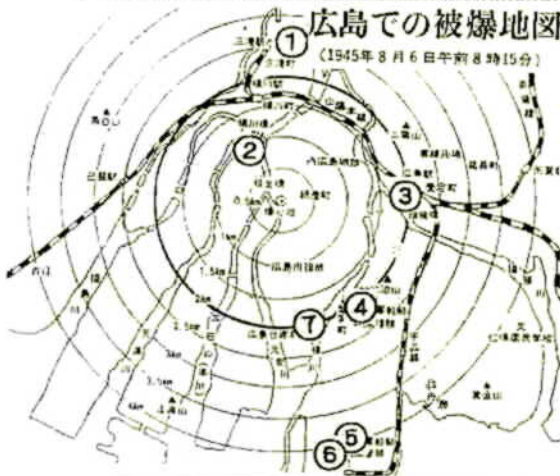
●6年前の1945(昭和20)年7月16日アメリカは原子爆弾の実験に成功 ●8月6日
ヒロシマに原爆投下 ●8月9日ナガサキにも原爆投下 ●8月15日日本の無条件降伏で終戦

相双地区にもヒロシマやナガサキで被爆された方が20名もいます...

今から61年前の第二次世界大戦末期、1945年8月米軍は人類史上初めて、広島や長崎に原爆を投下しました。そして23年前の調査で、相双地区の在住者で被爆された方が広島で14名、長崎で6名、計20名もいたことがわかりました。ほとんどの方が軍隊にいて被爆されたのです。現在は高齢になり、また亡くなっている方も多いのですが、その歴史的で希有な体験は「私も証言する」という小冊子にまとめられ出版されました。ここでは、20名のうち9名の悲惨な体験を紹介してみます。

ヒロシマでの被爆のようす

- ①小高区の遠藤昌弘さんは、陸軍病院のベットで眠っていて、叫び声で目を覚ました時被爆し、爆風で廊下の壁に吹き飛ばされる。82歳でご健在。昨年、この証言集がもとになって遠藤さんは被爆者と認定され、60年目にしてようやく被爆者手帳が交付されました。
- ②相馬市のAさんは兵舎で被爆し、気がつくとも誰かが安全な川原に運んでくれていて助かった。
- ③相馬市で米屋さんだったBさんは、軍隊で尾長町からトラック5台に分乗し、広島市内に向かっていった。8時10分ごろ、広島駅に近い愛宕町の踏切で止められ貨物列車の通過を待っている時に被爆する。4台目認定患者となりました。
- ④新地町の飯土井鶴吉さん(故人)は、軍隊の兵舎の3階で戦友と話している時に被爆。1階まで投げ出されたが助かる。胸についていた「黄色い血」は、一緒に話していた戦友の「脳」でした。
- ⑤原町区三島町の桑原馨さん(故人)は、軍隊の教官だったので朝礼に参加せず便所から出て建物の陰にいたため無傷で済む。その後死体の処理や、水を求める女学生らの被爆者の悲惨な姿に心を痛めます。
- ⑥鹿島区の中川善久さん(故人)は、軍隊の講堂でモールス信号の演習中に被爆しますが、爆風が頭の上を吹き抜けただけで助かる。その後、麻酔なしで盲腸手術をうけ、傷口が治らないうちに広島から苦しみながらも鹿島町鳥崎の自宅に帰る。
- ⑦相馬市のCさんは18歳の少年兵。路上で歩行中に被爆。運良く建物のおかげで吹き飛ばされただけで軽傷だった。しかし30年後、娘さんの縁談が「被爆者の子」という理由で二度も解消されます。



ナガサキでの被爆のようす

- ⑧相馬市原釜のDさん(故人)は横須賀の軍隊にいて、軍の命令で長崎に行く途中広島を通過して被爆。さらに長崎に着いた9日に二度目の被爆をする。全国でも数少ない「二重被爆者」でした。
- ⑨小学6年生だったEさんは、生家でパラシュートをつけて落下してくる原子爆弾を目撃している。原町区にご在住です。

この『私も証言する』を編集した「原水爆を考える原町市民の会」の会長は古山哲朗さんでしたが、古山さんがお持ちだった残部100部は、「はらまち九条の会」の活動のために活用させていただいております。ご希望の方は、事務局山崎(TEL22-8631)までお申し出ください。

相双地域在住者の被爆体験談集 『私も証言する』

原水爆を考える
原町市民の会・編
・1983(昭和58)年発行
・頒価 1冊1,000円
・3,000部印刷
(販売2,000。寄贈500)



<原爆や平和のことは> ●非核三原則「核兵器を持たず、作らず、持ちこませず」

- 『日本国政府には、被爆者や市民の代弁者として、核保有国に対して「核兵器廃絶に向けた誠実な交渉義務を果たせ」と迫る、世界的運動を展開するよう要請します。そのためには世界に誇るべき平和憲法を順守し、海外や高齢化した被爆者の実態に即した人間本位の温かい援護策を充実するよう求めます。』2006(平成18)年8月6日 広島市長 秋葉忠利『平和宣言』
- 『死ぬために生きているものではありません』『正義の戦争より、不正義の平和の方がまだましじゃ』井伏鱒二『黒い雨』(主人公の重松は広島で「黒い雨」で被爆。姓の矢須子は美しく立っていいが「被爆者」という偏見で縁談は何度も破談する。昭和64年に映画化)
- 『私は(こんな悪魔の申し子の原爆を投下した)指導者というものを一切、信じないことにしました。目を皿のようにして彼等の一挙手一投足を見張っているようにしたい。そして彼等がいったいなにをやったか、それを見定めたいと願っているのです』井上ひさし『ノーマヒロシマ・カギ特』より(山形県出身。04年に、原爆をテーマにした戯曲『父と暮らせば』も映画化され高い評価を得ています。)